

## EIIRISプロジェクト研究計画書(2020年度)

系・センター名 エレクトロニクス先端融合研究所

氏 名 野田 俊彦

□新規 ■継続

研究課題	農業応用を指向したマルチモーダルセンシングシステムの開発		
研究目的	(EIIRIS・VBLの研究テーマとの関連、および施設・設備使用目的を明らかに) 植物工場に代表されるスマート農業の分野では、植物の成長に影響する養分、水分量、pH、温度など多くの項目を網羅的に同時測定して植物の生育を最適制御し、植物工場の生産性を最大化する試みが注目されている。本概念を実現するためには、小型のマルチモーダルセンサを開発して圃場の多地点を計測する事が必要である。そこで本研究では、本学で開発されたイオンイメージングデバイスをコア技術として、農業分野に適用可能なマルチモーダルセンシングデバイスを開発し、社会実装可能な計測システムを構築する。CMOS 技術を基盤としたセンサチップ開発であり、EIIRIS および VBL の CMOS/MEMS プロセス機器および各種分析装置を使用した研究開発が必須となる。本センサチップおよび計測システムを開発することにより、植物の生育を左右する情報を正確に把握する事が可能となり、収穫量の安定と増大につながる事が期待される。		
研究計画及び方法	(過去の経過、研究準備状況等) 植物の茎に刺入可能な小型の水素イオンイメージセンサを準備し、トマトの茎に刺入した状態でセンサ動作が可能である事を実証した。酸性水溶液を吸水させる検証実験では、茎内のpH分布の経時変化のリアルタイムモニタリングが可能であった。またイオンイメージセンサの検証実験と並行し、温度や樹液流量、電気伝導度などの計測が可能なマルチモーダルセンサを設計し、本学のLSI工場で試作した。 (今後の研究計画及び方法、利用希望設備など、EIIRIS教員と打合せている場合はその状況) 植物刺入型センサについては、引き続きEIIRISの高山教授と連携して開発を進める。本年度は定量評価に取り組むとともに、試作した新センサの検証も行う。これらの結果を受け、改良型のセンサの設計と試作を行う。センサの試作には、EIIRIS/VBLのCMOS・MEMSプロセス機器を用い、計測実験にはEIIRISのバイオ実験室を利用する。茎に刺入するセンサと並行して、同センサを根圏の計測に適用可能であるか、検証実験を行う。		
EIIRIS・VBL内で研究プロジェクトを行う理由	センサチップ上への感応膜の成膜とパターンニングには、スパッタリング装置やフォトリソグラフィ関連装置が必要であり、観察・分析と連携した研究遂行も必要であるため、EIIRIS・VBLの装置群の利用が必須である。また、水溶液を用いたセンサ特性の評価や、植物計測実験は一般の電子デバイスの評価環境では困難であり、EIIRISのバイオ実験室の研究環境を利用する事で円滑に遂行できる。本研究は集積化センサの専門家と、スマート農業の専門家が協力して遂行するものであり、両者ともにEIIRISに所属する教員であることから、情報共有や連携体制に何ら問題はない。		
研究組織	研究者氏名	所属・職名	役割分担
	(研究代表者名の後ろに◎を付す) 野田 俊彦 ◎ 高山 弘太郎 澤田 和明	EIIRIS・准教授 EIIRIS・教授 電気・電子情報工学系・教授	研究統括、デバイス製作と実装 植物を用いた実証実験の実施 イオンイメージセンサに関する技術提供
研究期間: 2019年4月 ~ 2022年3月(原則として3年間)			
(研究期間の始期は、研究を開始した年を記入する。終期は原則として、開始した年から3年後を記入する。)			

